

令和2年11月2日

美深町議会議長 南 和 博 様

総務住民常任委員会委員長 藤 原 芳 幸

所 管 事 務 調 査 報 告

本委員会は、下記の事項について閉会中に所管事務調査を行ったので、会議規則第77条の規定により報告する。

記

調査日

令和2年10月29日

調査事項

高齢者福祉・介護サービス事業(特養・グループホーム等)の現状と課題について

調査内容

①コロナ禍における施設の対応・サービスの状況について

各高齢者施設でのコロナ感染の対応については、国や道の指針に基づくものと、町の保健センターと連携し感染症対策に取り組んでいる。特に道と国の緊急事態宣言が発令されていた時期は、ショートステイやデイサービスにおいて、一部施設でサービスの休止や内容変更などを行ったが、緊急事態宣言解除後の6月以降は徐々に解消され、現在は感染症対策を行いながら平常時に戻りつつある。

特別養護老人ホームやグループホームなどの入所者サービスは変わらないものの、入居者との面会に制限を設けるなど各施設の状況に応じた対応策がとられ、今日まで感染者が発生していない状況にある。

②町内施設の入居状況及び待機者・住所地特例者の状況について

町内6施設で待機者が発生している状況にあり、特に介護保険指定施設の4施設で延べ73人(9月末)の待機者数となっている。

住所地特例での本町の施設利用者は34人で、町内に住所を置いたまま他市町の施設に入所しているのは13人であり、利用先の選択は家族の意向が大きく左右している現状がある。

表1 介護保険指定施設の入居状況 (人)

施設名	定員	入居者	待機者
美深町特別養護老人ホーム	50	48	38
グループホームびふか	18	18	8
グループホーム清の里美深	18	18	10
緑の大地 緑生苑	16	14	17
合計	102	98	73

表2 その他の施設の入居状況 (人)

施設名	定員	入居者	待機者
シェアハウス えにしの里	15	15	5
ケアハウス むつみの苑	50	49	2
合計	65	64	7

③時代の変化に伴う施設の個室化・バリアフリー化等の対応について

特別養護老人ホームは開所後の変化に伴い必要に応じ改修を進めてきているが、ショートステイ以外は個室化になっておらず、バリアフリー化も一部対応ができていないところもある。グループホームなど最近開所した施設は、個室化やバリアフリー化に対応した施設となっている。

④特養移転計画の進捗状況について

平成 27 年	特養改築構想（案）について協議（H36～38 移転）
平成 28 年	電動式ベッド・マット更新（車両・LED 化は独自で実施）
	台風で南富良野の特養が水害に見舞われ改築機運が高まる
	第 5 次総計ローリングに改築計画を追加
平成 29 年	担当者同士の事務レベル協議を実施（3 回）
平成 30 年 10 月	美深福社会単独で施設視察 （稚内市特養「富士見園」・南富良野町特養「ふくしあ」）
令和元年 11 月	町側と美深福社会での合同視察 （小清水町特養「愛寿苑」・中富良野町特養「こぶし苑」）
令和 2 年 8 月	美深福社会より提案書（案）について協議

調査のまとめ

全国的には、現在も新型コロナウイルス感染症の収束の見通しがつかず感染が広がっているが、本町において感染者が出たという報告はない状況にある。これは、町内各施設が嚴重な感染予防対策を徹底していることや、町民の「感染しない・感染者を出さない」という意識の高さが表れている結果と言えるが、一方、高齢者施設での感染発生はクラスターとなる可能性があり得るので、今後も油断することなく、感染防止対策の徹底を継続していくことが重要である。

各施設の利用状況はほぼ満床であることから、待機者も多くいる状況にある。町民が求めるのは、介護等が必要な状況になった時には待たずして施設に入居できる環境が望ましく、施設の事業運営、利用者の推移、将来の人口構成などを総合的に判断し、待機者の解消に向けた方向性を次期の高齢者保健福祉計画に示すべきである。

特別養護老人ホームの老朽化と洪水時に浸水する場所であることは多くの人が共通認識を持っており、移転改築計画の概要を詰めていく段階に来ているが、いまだ総論の段階である。今後の協議においては、施設を運営している美深福社会の考え方もあると思うが、町として美深町全体の施設の在り方をしっかりと持つべきであり、施設の利用者はもちろん、職員が働きやすい環境をどう整備するかなど、双方による具体的な協議を早急に進め、移転改築計画が進展することを望む。